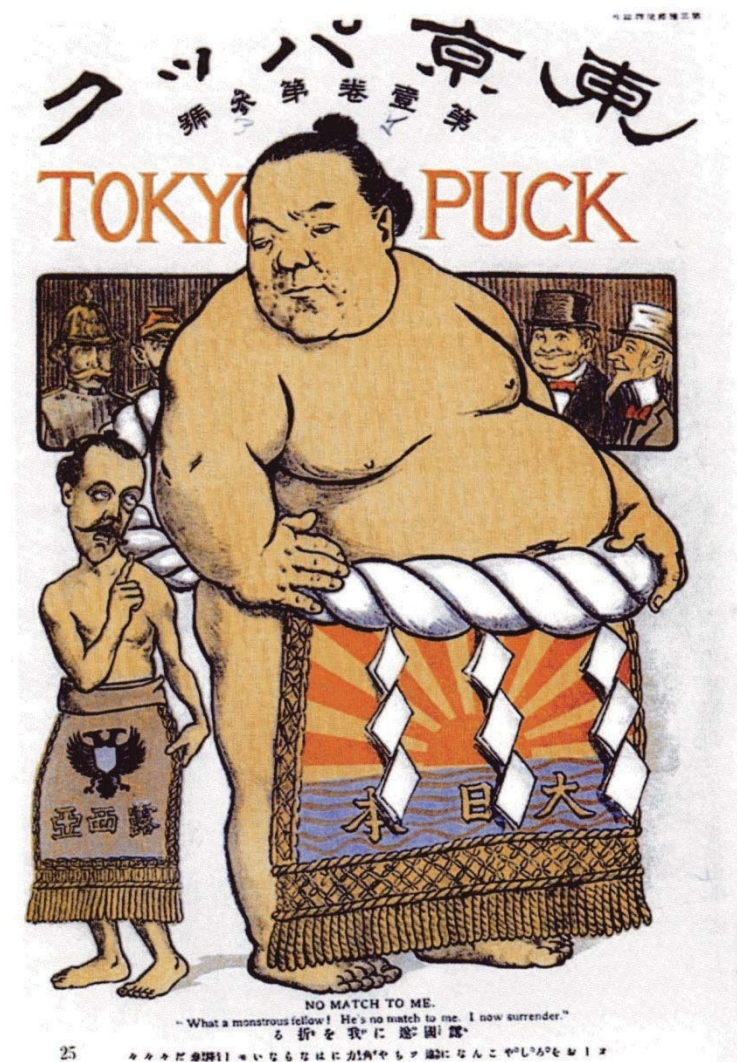


海外における
日本のイメージ

外国語支援プロジェクト（文学研究科）



海外における 日本のイメージ



はじめに

この冊子は京都大学で行われている「世界展開力の強化事業——『開かれた ASEAN+6』による日本再発見：SEND を核とした国際連携人材育成」事業の一環として、これから海外に留学しようとする方々を対象に、世界で「日本」についてどのようなイメージが持たれているか、その例をいくつか知っていただくために編んだものです。英語、ドイツ語、フランス語、イタリア、ロシア語、中国語、韓国語で執筆された、日本にまつわる様々な歴史的・文化的事象についてのこれらの論文は、京都大学文学研究科の「外国語支援プロジェクト」のメンバーが、各自の留学体験や専門分野についての知見に基づいて、当該国の「日本観」をよく表したものとして選び、日本語に訳しました。扱われるトピックは様々ですが、そこに現れる「日本」を総合することで、世界のなかで日本がどのような像をきり結んでいるかを、立体的に把握していただく助けになるのではないかと考えています。これから留学しようとする国の文化圏についてだけでなく、他の文化圏の「日本像」にも目を通していただきたいと思います。

それぞれの論文は、当該国あるいはその文化圏と日本という国が、過去から現在まで育んできた関係—しばしば緊張をはらんだ関係—の歴史を背景としています。一般的に言って、論じられる対象は客観的な、さらに言うならば批判的なまなざしにさらされることは必定です。そこには今よく取りざたされる“Cool Japan”の面影はありません。海外でそこに暮らす人々と接しながら、彼らが私たちの背後に見る「日本」のイメージの奥行きに十分な感受性を持って、実り多い留学生活を送っていただければ幸いです。

翻訳者を代表して

文学研究科 田口紀子

海外における日本のイメージ

英語圏【解説】（網谷祐一・橋本知子）	2
ジョン・ベイティ「科学者の協働、国際主義、外交：原爆傷害調査委員会の場合」	4
ノエル・バーチ『遥かなる観察者に向けて』第25章「大島渚」	24
ドイツ語圏【解説】（園屋心和）	37
ゼバスティアン・コンラート「「開国」と「鎖国」——日本と世界を記述する二つのパラダイム」	38
フランス語圏【解説】（沢崎壮宏）	54
【第1論文】クラウス・ディトリッヒ「万国博覧会（1873～1904年）を通じての教育制度の近代化」	56
【第2論文】ポール＝エチエンヌ・ルクレルク「日本とフランス世論（1931～1940年）——空想的な近代への共感」	61
【第3論文】キャロル・グラック「明治と近代——歴史から理論へ」	66
イタリア語圏【解説】（内田健一）	79
ティツィアーノ・テルツァーニ『アジアにて』	80
ロシア語圏【解説】（福嶋千穂）	98
ユリヤ・D・ミハイロヴァ「明治期日本の政治的カリカチュア：規範形成の問題に寄せて」	99
中国語圏【解説】（佐藤礼子）	113
【翻訳1】畢苑「百年前に作られた日中共同編集の教科書」	115
【翻訳2】李兆忠「我々はいかに日本を見るべきか」	122
【翻訳3】葛兆光「国家と歴史の間」	129
韓国語圏【解説】（鄭賢珠）	140
【翻訳1】クォン・シュクイン「日本、近代とともにあたえられた課題」	142
【翻訳2】パク・ノザ「「文明開化」羨望と対日敵対心の間で：申采浩の日本観」	150
【翻訳3】パク・グァンス「韓国併合前後の韓国新宗教創始者たちの日本観：水雲、甌山、少太山を中心に」	150
【翻訳4】パク・ジヒャン「花と刀を同時に愛する民族：尹致昊がみた日本」	151
【翻訳5】ユン・デソク「日本という鏡：李光洙がみた日本・日本人」	151
【翻訳6】パク・テギョン「反日を通してもう一つの日本になること：李承晩大統領の対日認識」	152
【翻訳7】ハン・ソクジョン「朴正熙、あるいは満州国版ハイモダニズムの拡散」	152
【翻訳8】キム・チョル「民族-メロドラマの悪役たち：『土地』の日本（人）」	153
【翻訳9】ファン・ホドク「日本、それにも拘わらず依然として、世界の入口：『縮小志向の日本人』から読むある後期植民地人の肖像」	153
【翻訳10】キム・ヨンウク「李秉喆の日本模倣と追越しに関する試論」	154
【翻訳11】チョン・ヨンウク「日本人の「戦後」と在日朝鮮人観：米軍占領当局に送った手紙に現れる日本社会の輿論」	154
翻訳者プロフィール	156